

第17期 第3回 砂防公開講座 実施報告

《地域の資源～歴史に触れて学ぶ～》

平成25年12月12日(木)第3回砂防公開講座 ～参加者22名～

砂防公開講座とは、土砂災害・地すべり・火山災害から暮らしを守る砂防事業を肌で感じ、知識と理解を深めて、防災について学ぶ講座です。

室内講義 「金井東裏遺跡について」

(場所:群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館)

今回は、群馬県埋蔵文化財調査事業団の方に、ご協力をいただき、室内講義を実施しました。

「金井東裏遺跡(群馬県渋川市)」は、古墳時代後期の6世紀初頭に噴火した、榛名山二ツ岳の火山灰が堆積しており、平成24年11月「甲(よろい)を着装した人骨」が出土し話題となりました。その後も、「首飾りの古墳人」など複数の被災者の存在や火山灰に残された足跡、土器集積遺構など周辺の環境が明らかになりつつあります。



★室内講義の様子



群馬県埋蔵文化財調査事業団
専門調査役 西田 健彦 氏
遺跡調査により、「当時の災害の様子」が解り、その後の復興復旧についても解ってくる」・考古学は「当時の人の“生き様”が解る」



★発掘情報館の見学

★滑川床固群工事現場



野外学習 「榛名川上流砂防堰堤」、「滑川床固群工事現場」の見学

(場所:群馬県高崎市榛名山町、高崎市中室田町)

河川内の土砂堆積や上流域開発の影響により急激な増水・氾濫による災害が発生しやすい状況を改めるため、烏川合流点から上流4.6kmの床固群が計画され、沿川住民の憩いの場や水辺の生き物に配慮した空間とすることを旨として、自然石を用いた護岸や魚道の整備を継続しています。



★榛名川上流砂防堰堤

堺野 武志
榛名出張所長

榛名川上流砂防堰堤は、榛名山を源とする榛名川の最上流部に位置する砂防堰堤で、昭和30年3月に完成しました。この堰堤の特徴は高さ15m以上の堰堤を練石積(石と石の間にコンクリートを混ぜた積み方)により造ったことです。当時としては高度な石積技術や最先端の機械が用いられました。また、平成18年に文部科学省より登録有形文化財として登録されました。

- ◆重力式コンクリート造堰堤
- ◆堤長 69m◆堤高 17m
- ◆貯砂量 68,000m³

アンケート 結果

- ・毎回、変化に富む内容でよい、遺跡調査の話は楽しく学ぶことができた。
- ・榛名川上流砂防堰堤は、当時の石工の“技”に感動を覚える。
- ・数、参加していると、自分の為にも、地域にも為になる。
- ・災害を最小限にするため、弛まぬ防災工事が継続していることに、講座に参加して感嘆。